

キリスト教のお葬式に出られたことはありますか。聖公会のお葬式ではたいてい、牧師の首から下げるストールの色や、聖卓や聖書台にかかっている布の色(祭色)は、白色が使われます。この白には喜びという意味があります。わたしたちは愛する人との別れるとき、悲しみの涙を流すと同時に、その方が神さまのみもとで憩うことになるという大きな希望を与えられるのです。

旧約聖書には、希望を抱く人々の姿や詩が多く記されています。イスラエルの人々にとって、主の救いのみ手が差し伸べられることが大きな希望でした。そして預言者は、救い主メシアが到来するという預言をします。

その希望は、イエス様によって実現されます。神さまはイエス様をこの世に遣わすことによって、神さまと人間の間にできた溝を埋めてくださいました。イエス・キリストを救い主として受け入れ、神と信じる者に永遠の命を与えられたのです。

わたしたちは、人間である限り、生きてると必ず苦しみや悲しみを経験し、ときに絶望の淵に立たされます。そして、死に対する恐れに包まれます。しかし、神さまに出会い、イエス様を知っているならば、何も怖くはないのです。死こそが新しい命への出発点なのです。

パウロは希望について、多くを語りました。それはパウロの時代、キリスト者が迫害を受け、とても苦しい毎日を送っていたことと関係があります。けれども、彼は固く信仰を持ち、希望を見失わず、たくさんの教会の信徒たちを励まし、希望を与え続けました。

そのパウロの言葉は今も生き、聖書を読むわたしたちを励まし続けています。

今回は「救済」です。お楽しみに。



「受胎告知」

バルトロメ・エステバン・ムリーリヨ

(1472~1553年)

しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいきましょう。

(テサロニケの信徒への手紙 5章8節)

